



50th ANNIVERSARY TOHOKU INSTITUTE OF TECHNOLOGY

2014年、東北工業大学は創立50周年を迎えます。

創造から統合へー仙台からの発進

東北工業大学

東北工業大学創立50周年記念

第30回定時総会・懇親会
2014年10月25日(土)・16:30～
仙台国際ホテルで開催!

Kodai

Jin!

1 ●ごあいさつ

同窓会会長

大学事務局長

法人本部事務局長

秋元 俊通

佐藤 亨氏

樋野 隆一氏

5 ●恩師からの便り

名誉教授

名誉教授

江成敬次郎氏

新井 信一氏

7 ●活躍する工大人

大金電子工業株式会社 取締役

川村 明浩氏

東京工業大学 建築物理研究センター 准教授

佐藤 大樹氏

仙台市太白区公園課 課長 大友 弘道氏

公益社団法人 宮城県生活環境事業協会 浄化槽法廷検査センター

清川 敦氏

(一財) 宮城県建築住宅センター

水原 丈氏

12 ●支部活動等報告

18 ●50周年の歩み

●同窓会総会・懇親会、教育
助成基金募集のご案内

ご挨拶



東北工業大学同窓会 会長

秋元 俊通 (あきもと としみち)

1975年 土木工学科卒業 (5回生・菊地研究室)

現在 株式会社 秋元技研コンサルタンツ 代表取締役

工大人18号の発刊に当たりご挨拶申し上げます。会員各位におかれましては、益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。

東北工業大学は創立50周年を迎えました。大学の歴史と伝統そして発展は、同窓生の拠り所です。今後益々のご隆盛をお祈り申し上げます。

大学が半世紀を数える歴史を築かれるのと並行して、当会々員も3万人を超え、各地各界でご活躍になっておられます。伝統と数は力です。今こそ私たちの新たなネットワークを構築して、会員各位の活躍の場を広げ、活動の成果を高めようではありませんか。各位のご協力を切にお願いいたします。

昨年度は、北海道支部、青森支部、新潟支部、北上支部(岩手県)の支援および岩手県、秋田県及び福島県で同窓生の集いを開催いたしました。各地区で会員有志の小さい火種から立ち上げて、会員自らで大きな炎にしていきたいと存じ、同窓会はそのきっかけを作ってまいります。

早いもので、東日本大震災から3年半が経ちました。亡くなられた皆様には衷心より哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様には心からのお見舞いを申し上げます。また、この間、復旧・復興に携わってこられた皆様および直接・間接に支援してこられた皆様に、心よりの敬

意を表します。

遅ればせながらではありますが、被災地は復興に向けて具体的に動きだしております。多くの会員が多面でこの復興事業に携わられております。即戦力たる技術者を世に輩出するという当大学の基本理念は、この震災の復旧・復興において具現化されたと申せましょう。完全復興には、これからまだまだ時間と労力を要しますが、終結に向けて一步一步着実に進んでまいりましょう。また、これらの被災と活動の記録を各地に広げ次の災害に備えることは勿論、風化させることがないように大学と連携しながら世代を超えて語り継ぐことも忘れてはなりません。

ん。当同窓会もその一助となる活動を続けてまいります。

当同窓会も、まもなく創立30周年を迎えようとしています。これまでの皆様からお寄せいただきました深いご理解と篤いご支援に感謝申し上げますと共に、大学及び会員各位の今後益々のご隆盛を祈念いたし、挨拶に代えさせていただきます。



「建学の精神」に思うこと

大学事務局長

佐藤 亨（さとう とおる）氏

1953年 東京都出身

早稲田大学、総務部秘書担当調査役、URセンター後援会課長、総合企画部企画課長、理工学部事務課長、理工学部業務開発・入試課長、法学部事務課長、学生部事務課長、研究推進部研究院担当事務課長、キャンパス企画部課長など、2014年4月から現職



東北工業大学同窓会の皆様には、ますますご健勝でご活躍のことと心よりお慶び申し上げます。また日頃より母校の発展、在学生への支援にご協力賜りましてありがとうございます。心から御礼申し上げます

昨年12月に本学に着任し、本年4月に大学事務局長を拝命いたしました佐藤です。昨年まで長年東京の大学に勤めておりましたので、いささかもカルチャーショックはありませんでしたが、やはり大学にはそれぞれの校風があって誠に興味深いものがあります。建学の精神である「わが国、特に東北地方の産業界で指導的役割を担う高度の技術者を養成する」により、時代の変化に対応でき社会から求められる人材を輩出すべく、朴訥なまでに真面目に教育・学生支援に取り組んでいる教職員の姿は十分に社会に誇れるものだと確信できました。

残念ながら、少子化のあおり等を受けて数年続いていた入学定員割れや退学者の増加は回復し切れてはいませんが、教職員の真摯な努力によって少しずつ上げ潮に向かっているようにも思えます。

本年6月21日には盛大に創立50周年記念式典を挙行することができましたし、読売新聞

社発行『就職に強い大学2015』の「2014年4年生大学実就職率ランキング」で全国19位にノミネートされ、7月末には平成26年度文部科学省COC「地（知）の拠点整備事業」に本学が採択されるなど明るい話題も増えてきました。特にCOC事業は申請数237件中25件が採択と10倍の難関を突破する快挙でした。

さらに、2015年中には地下鉄東西線が開通して駅前大学になりますので、追い風が吹いてきたと言っても過言ではありません。

私自身も、これを機に、真面目で明るい東北工業大学の雰囲気、躍動感と親しみやすさを付加したうえで、それを東北全県に浸透させ、本学を発展させたいと願い、努力していく所存です。

創立50周年を迎えた本学が、学生、教職員、地域社会、そして東北の産業・経済の発展に大きく貢献してこられた3万人を超える卒業生の皆様とのつながりを深め、今まで以上に強く結ばれることを期待いたしております。同窓生の皆様方には、どうか今後とも変わらずご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。末筆ながら、皆様のますますのご多幸をお祈り申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

寄付に対しての御礼と今後のお願い

法人本部事務局長

樋野 隆一（ひの りゅういち）氏

1952年 宮城県涌谷町生まれ

2007年 法人本部事務局企画調査課長

2014年 法人本部事務局長兼企画調査課長



2014年4月、東北工業大学は大学創立50周年を迎えましたが、開学以来、3万2千余名の卒業生を輩出し、東北の産業の発展に大きく貢献してきました。大学創立50周年記念事業の一つとして、2012年11月1日から2015年3月31日まで、学校法人東北工業大学教育振興助成基金の増額による奨学金制度の拡充を目的として目標2億円を掲げ、募集活動を開始しましたところ、同窓会、同窓会各支部、同窓生の皆様から幅広くご協力を賜り、誠にありがとうございました。東日本大震災後ということで募集環境が厳しいこともあり、2014年7月末現在、募集実績は約80百万円（進捗率40%）と苦戦しておりますが、前回の寄付と比較して同窓生の皆様からの申込みは件数・金額ともに増えており、同窓生の皆様のご支援に重ねて感謝申し上げます。来年3月まで残すところ8ヶ月となりましたが、目標達成に向けて更なるご協力をお願いする次第でございます。

さて、この記念すべき50周年の年に第2次5カ年計画をスタートさせることになりましたが、第2次5カ年計画では大学のありべき姿として「東北地方にお

ける私学として最も魅力のある文理融合型の工科大」という新たなビジョンを策定しました。このビジョンを実現するために、計画に掲げた重点施策を着実に実行し、これまで以上に魅力的な工科大へと一層飛躍することを目指します。その重点施策の一つとして同窓会との連携強化を掲げ、オープンキャンパス、大学祭、ホームカミングデーなど同窓生との交流促進や様々な分野での連携を強化することとしております。

去る6月21日に開催しました大学創立50周年記念式典・講演会・祝賀会、それに先立って開催されましたキャンパス見学会にも多数の同窓生の皆様にご出席いただき、誠にありがとうございました。今回を契機に同窓会との絆を更に強くしてまいりますので、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

45 年の 付き合いでした。

環境エネルギー学科元教授

江 成 敬 次 郎 (えなり けいじろう) 氏

元工学部土木工学科/工学研究科土木工学専攻 教授

元工学部環境情報工学科/工学研究科環境情報工学専攻 教授

元工学部環境情報工学科 学科長

東北工業大学名誉教授



1975 年 4 月に土木工学科講師として勤務して以来 39 年、今年 3 月に客員教員を終了しました。実は 1975 年以前の 1969 年 4 月から 1 年間土木工学科助手として勤務し、その後も非常勤として学生実験や卒業研修を担当していた関係で、工大との付き合いは 45 年になります。今年創立 50 周年記念の年ですから感慨深い永さを感じています。

この間研究室から巣立った卒業生は約 550 名、うち、大学院進学者 22 名、博士後期課程修了者 2 名に上ります。多くの学生達と卒業研修や修論研修で充実した活動ができたことを嬉しく思っています。

前半 25 年ほどは、活性汚泥法を中心とした廃水処理法に関する実験を、卒業研修として取り組みました。併せて、市内の小河川、梅田川、二つ沢、沢川等を対象にした水質調査や雨水の流出調査などにも取り組みました。これらの取り組みが基礎になり、市民・行政の皆さんと、「市民の川創造事業」へと発展し、現在私が関わっている「広瀬川創生プラン」の活動や「雨水ネットワーク東北」の活動へ

と繋がっています。仙台の水環境保全に貢献する成果を残すことが出来ました。

後半の約 20 年は、ハイテクリサーチセンター事業に携わり、また土木工学科から新設された環境情報工学科に移籍しました。ハイテクリサーチセンター事業では循環技術研究施設に設置されたガラスハウスを活用して植生浄化法に取り組み、現在もその延長線上の人工湿地法による廃水処理技術の開発に取り組んでいます。新学科への移籍では、環境問題への関心の高い学生達との出会いがあり、新たな刺激となりました。しかし、元の土木工学科、移籍した環境情報工学科が、建設システム工学科、都市マネジメント学科、環境エネルギー学科と名称を変えて現在に至っていることには、複雑な思いを抱えています。

現在の生活は、非常勤講師として学部と大学院の講義を担当しながら、各種委員会への参加や、市民団体での活動を行い、「Think Globally, Act Locally」の精神で、環境保全のために出来ることをしていきたいと考えています。

考える力こそ

都市マネジメント学科元教授

新 井 信 一 (あらい しんいち) 氏

経 歴 日立造船株式会社、足利工業大学教授、東北工業大学教授 (工大広報編集委員会委員長、都市マネジメント学科・建設システム工学学科長、教育研究支援センター長)



学生に考える力を！と頑張っていたら、あっという間に 10 年が過ぎ、今年、退職となりました。改めて振り返ると、学生諸君は卒業研究を通して見事に豹変していったかなと思います。

仙台で育った私は 1971 年 4 月に日立造船 (株) に就職し大阪の技術研究所に赴任しました。土木屋の私は造船屋の中で海洋開発分野の仕事に携わることとなりました。大学で津波の研究をしていた私は、研究所では流体部門に入りました。海洋構造物が波間に浮かぶときの運動を知る必要があり、運動など考えたこともなかった私は勉強を強いられました。その時に必要だと認識したのは自ら考える力でした。日常の仕事でも、分らないからこそ研究所に持ち込まれる内容ばかりで、苦慮と熟考の連続でした。

卒業生の皆さんも様々な職場で夫々が工夫の毎日を過ごされていることと思います。天候のみならず世界の情勢も不安定になってきた今、我々の先行きも真剣に考えねばなりません。SP. ハンティントンが世界を 8 大文明に分類する時に日本だけ

は固有の文明とせざるを得なかったように、我々日本人は確かにユニークなのです。第一線で働かれている卒業生諸氏には是非、その力を十二分に発揮され、将来への道を社会に示されることを祈ってやみません。

私は、大阪の会社、足利の大学を経て、最後に故郷で教鞭をとれたことを幸せと感謝しています。引退しましたが、なお、「海洋教育フォーラム」の仙台実行委員長を拝命し微力ながら頑張っています。来る 11 月 1 日に仙台での第 2 回目のフォーラムを本学で開催しますので、是非ご来場ください。大学の HP で詳細を紹介の予定です。

雪国で育った ものづくり企業

大金電子工業株式会社 取締役

川村 明浩 (かわむら あきひろ) 氏

1961年 5月山形県生まれ
1984年 電子工学科卒業 (17回生・菊地研究室)
同 大金工業入社 (1985年 現社名に変更)
現 在 大金電子工業株式会社 取締役 (2007年～)



弊社は分社グループの1社として、山形に本社を置くものづくりの会社です。分社グループは、「大企業を目指すのではなく、小さな企業を次々に増やしていく。永遠に、そして絶え間なく細胞分裂を繰り返すことで、つねに新鮮さを保ち、人を活かす企業形態」を分社の基本的考えとし、グループ全体で現在20社、従業員数が約2千名で構成される、他に類を見ない企業集団です。他のグループ会社が東京に本社を置中、弊社は全国でも有数の豪雪地帯にあります。雪国という皆さんは閉ざされた地域というイメージがあるかと思いますが、近年、除雪体制は整っており、大雪で道路が寸断されて物流が止まってしまうなどという話はもう昔のことです。弊社は、多品種少量生産を基本に多くのメーカーから設計開発・製造及び特殊業務を受託しています。いわゆるODMで、金融・流通、医療・分析関連他、多分野の電子機器やメカトロニクス製品の設計から製造を手掛けています。今までいろいろなお客様から技術習得をして、社内ですらに改良を重ねて生産革新を進めてきまし

た。「日々改善」を心がけ、結果に満足せずに改善を継続することが大事だと思っています。そのための人材教育も重要課題です。弊社に工大卒業者は5名います。全員が県内出身者で、私を除き20代と若いです。皆さん各々活躍していますが、これからも努力を惜まずリーダー的存在になれるように頑張りたいと思います。

最後になりますが、東北工業大学の益々のご発展と、同窓生の皆様のご活躍を心からお祈り申し上げます。



本社屋 大雪の日の1枚

安全・安心な 建物を目指して

東京工業大学 建築物理研究センター 准教授

佐藤 大樹 (さとう だいき) 氏

1977年 宮城県仙台市生まれ
2000年 建築学科卒業 (31回生・川股研究室)
2002年 建築学専攻博士前期課程修了 (川股研究室)
現 在 東京工業大学建築物理研究センター准教授



近年、南海トラフに代表される海溝型巨大地震の発生が危惧されており、それに伴い生じる長周期地震動によって、長い固有周期 (建物が揺れやすい周期) を有する超高層建物が深刻な被害を受けることが懸念されています。このような切迫した問題に対して、私は建物内部に制振装置 (ダンパー) を設置して地震のエネルギーを吸収することで建物の被害を低減する制振構造の研究を行っています (写真1)。私の制振構造との出会いは、東北工業大学の学部と修士課程を過ごした川股研究室です。川股重也先生は、制振構造の先駆者的研究者です。川股研究室での生活は、研究に没頭しながら充実した毎日を過ごしていました。そのような生活の中から研究の楽しさに気づき、研究者への道を選ぶことを決めました。

研究者となる夢を実現するために、東北工業大学で修士課程を修了した後、東京工業大学に進学して博士号を取得しました。その後、東京理科大学で助教を勤めた後、防災科学技術研究所の研究員を勤めました。そして2014年の1月から東京工

業大学の准教授に着任しました。東北工業大学時代から始めた制振構造の研究は、この間も継続して行われており、今でも私の研究テーマの中心です。

東日本大震災では、これまで想定していた以上の地震動が発生しました。今後高い確率で発生が予測されている南海トラフでは、さらに大きい地震動となる可能性もあります。このような地震動に対しても人命を守るだけでなく、防災拠点として機能する安全・安心な建物を目指して、今後も研究成果を通して社会貢献していきたいと思っています。



写真1：
E-ディフェンスでの実大振動台実験
(ダンパーを設置した状態)

努力する人は美しい

仙台市太白区公園課 課長

大友 弘道（おおとも ひろみち）氏
1958年 12月宮城県南郷（現・美里）町生まれ
1981年 土木工学科卒業（11回生・神山（耐震）研究室）
現 在 仙台市職員（1981年4月～）

国家資格 一級建築士、技術士（総合技術
監理部門・建設部門（都市計画））
所属学会等 公益社団法人 日本都市計画学
会・公益社団法人 土木学会・公益社団法人
日本技術士会



私は、1981年仙台市職員に採用され、これまで財政局、下水道局（現：建設局に統合）、建設局、都市整備局、水道局、交通局、そして太白区と、4～7年間隔で異動し、その都度、局（区）を飛び越え異なる業務に従事して参りました。この間、多くの業務や立場を経験することが出来たことに加え、何よりも多くの職員と出会い、良い仲間と一緒に業務を行えたことは私にとって宝であり、これからも大切にしていきたいと考えております。

この間、イメージ通りに業務が進んだというよりは、失敗の数々でとても文章には出来ないことも多々ありました。成長はプロセスによって成されと考え、7回転んだら8回起きあがれば良い（なかなか起きあがれない時もありますが）と自分に言い聞かせ、たとえつまづいても『努力する人は美しい』という私の美学を生涯持ち続けて行きたいと考えております。

近況と致しまして、太白区公園課の通常職務は当然ながら、末尾に添付しました国土交通省東北地方整備局での業務発表や、仙台市新規採用建設技術職

員研修での講師も務めました。自己研鑽と共に後進の育成にも積極的に取組んでまいりたいと考えております。

むすびに、少子高齢社会等に伴う財政余力の減少、市民の価値観多様化の中での合意形成、更新期を迎えている社会資本の維持管理、大規模自然災害に対する防災、グローバル化の進展に伴う国際協調等々、昨今の社会経済情勢の中で直面する課題は多く、その着実かつ迅速な対応等に東北工業大学がリーダー的位置づけとなることを希望するとともに、私もその一人でありたいと願っております。

（2014.7.27 記）



2014.6.24 国土交通省東北地方整備局管内業務発表



2014.7.16 仙台市新規採用建設技術職員研修 講師

宮城県の汚水処理

公益社団法人宮城県生活環境事業協会
浄化槽法定検査センター

清川 敦（きよかわ あつし）氏
1982年 宮城県仙台市生まれ
2005年 環境情報工学科卒業（11回生・江成研究室）
現 在 公益社団法人 宮城県生活環境事業協会
浄化槽法定検査センター勤務



今現在、汚水処理施設のひとつである「浄化槽」の法定検査の仕事をしています。

汚水処理施設とは、家庭や事業所から排出される汚水を処理する施設のことで、「下水道」「農業集落排水」「浄化槽」などがあります。

「下水道」の特徴として、地下に埋設されている管渠に生活排水を流し、遠くにある下水道終末処理場で汚水を処理しています。また、多数の家庭の排水を1ヶ所で処理するため施設が非常に広大になります。一方、浄化槽は各家庭の敷地内に設置できるくらいコンパクトな機械のことで、とても小さな下水道終末処理場だと思って頂くとわかりやすいと思います。

また、「下水道」は人口密度が高い都市部で発達し、「浄化槽」は人家が散在している地域で発達しているという特徴があります。この違いとして、「下水道」は道路等の地下に管渠を埋設するため、掘削にコストがかかり人口密度が高い所でないと経済

効率が悪いということがあります。一方、「浄化槽」は各家庭の敷地内に埋設するだけなので人口密度が低い所でもコストをかけずに汚水処理施設を設置することができます。

現在宮城県では各地域の実情に合わせて「下水道」「農業集落排水」「浄化槽」を設置し汚水処理が行われています。私の仕事の浄化槽法定検査では浄化槽が壊れているところは無いか、処理水が基準値を満たした綺麗な水かということを検査しています。浄化槽は各家庭に敷地内に設置されているため、1ヶ所ずつ宮城県内全域を巡回しなければならないという大変な部分はありますが、環境保全のため少しでも役に立てればと思っています。



2 年目

(一財) 宮城県建築住宅センター

水原 丈 (みずはら たけし) 氏

1990年 4月生まれ

2013年 安全安心生活デザイン学科卒業 (2 回生・石川研究室)

現 在 (一財) 宮城県建築住宅センター勤務



宮城県建築住宅センターに入社し、2年目になりました。主に建築確認検査事業を行っている会社ですが、私の所属する建築課では公共建築物の工事監理業務 (第三者監理) を行っており、私は主に市町村の集会所等の工事監理業務を行っています。また工事監理以外にも耐震診断業務や地震等による建物被害調査等も補助ではありますが担当しています。建築に関してはまだまだ知識も経験も足りず、毎日が勉強であり新鮮な日々を過ごしています。

現在、業務を行っている中で、大学時代に得て一番有益であったもの、支えとなっているものは「つながり」であると強く感じています。それは友達であり、先生であり、OB・OG…総じて「工大」という名のつながりです。所属していた硬式野球部の仲間や学部の間とは卒業後も定期的に連絡を取り合い、互いの近況報告をすることで頑張っている仲間から刺激をもらい仕事のモチベーションを高めることが出来ています。また、職場においても工大の先輩も多く、仕事や人生に関する考え方等多くを学ばせてもらい、工大のつ

ながりの広さ、強さを感じています。

まだ社会人になって2年目。活躍する工大人として語るにはあまりに軽いキャリアであり経験が浅い。これから本物の「活躍する工大人」を目指し日々邁進してまいりたいと思います。

最後になりますが、工大の皆様と卒業生の皆様のますますのご活躍を心からお祈り申し上げます。

【新潟支部】

同窓会の盛上りは支部活動の延長から

動山 憲一 (どうやま けんいち) 氏

1976年 土木工学科卒業 (6回生・盛合研究室)

現 在 学校法人 みのり学園 長岡みのり幼稚園勤務

2014年6月7日 (土) 第18回同窓会新潟支部総会、後援会新潟支部の総会、父母懇談会を同日開催しました。

同窓会、後援会、父母懇談会の参加者が激減する中、新潟県支部では、数年前から大勢の会員、在校生の保護者の参加をよびかけ、同日、合同の総会懇親会を企画、実施しております。今年度も出席を頂いた本学の先生、職員、同窓会、後援会、保護者との交流を深めつつ母校を盛り上げようと意見交換に花を咲かせながら、有意義に総会を終了することができました。

毎年の懇親会の席では、各種学校が乱立し学生の確保が苦慮されている中、如何に新潟県からの入学生を囲い込めるかが話題となるのが常で、飲むほどに酔うほどに大いに話が弾み、毎年、色々な提案、妙案が湧いて出ます。この提案、妙案を踏まえつつ、本学をはじめ県内高校

等への情報提供及び卒業生への県内企業の採用情報提供、また大学見学会への旅費の援助等、支部としてできる範囲で活動を続けてまいりました。

この活動が功を奏したのか、今年度は本県から4名もの学生が入学、また保護者の皆様から、このような同窓会、後援会のあり方に好評を頂き、嬉しく思っております。ここ数年の同窓会、後援会が一体となった取り組みに対しての本学及び後援会本部のご理解の賜物と思っております。今後も多くの会員の参加を呼びかけながら、大学はもとより、同窓会、後援会を盛上げる企画を飲酒の席を借りつつ、摸索できればと考えております。

手前味噌の活動報告になってしまいましたが、同窓会の皆様、大学関係者の皆様のご活躍を願い、新潟支部会の報告といたします。



【青森支部】 我が母校 50 周年記念に参加して

向井 務 (むかい つとむ) 氏
1982年 土木工学科卒業 (12回生・今野研究室)

今年の夏はエルニーニョ現象による冷夏になるのではないかとされておりましたが、東北地方も見事に暑い夏を迎えることができ、皆様いかがおすごしでしょうか。

6月7日の「平成26年度父母懇談会」終了後、後援会関係者3名、大学関係者2名、同窓会関係者4名及び同窓会青森県支部幹事10名、青森県支部同窓会関係者1名の総勢21名にて連絡協議会を行いまして、大学からの近況報告、青森県支部からは倉橋前支部長の青森商工会議所副会頭の就任の報告をさせていただきました。



さて、今年は東北工業大学創立50周年と言うことで6月21日(土)の記念式典・記念講演・記念祝賀会に青森県支部からも参加することとなりました。当日はレンタカーにて先発隊5名で出発、お昼には前沢牛丼をいただき仙台に無事に入ることが出来、記念講演まで時間がありましたので、八木山キャンパスまで足を伸ばしてきました。なかには卒業して二十数年ぶりの訪問の者もあり、高低差約11mものエスカレーターにもびっくり、時の流れを肌で感じました。記念講演・祝賀会も盛大に行われ、卒業生として大変有意義な時間をいただけたと思っております。青森県支部同窓会としてもこれからの大学の節目節目の時には微力ながら力になっていきたいと思ひます。創立50周年おめでとうございます。



【北海道支部】 北海道支部のこのごろ

山口 龍彦 (やまぐち たつひこ) 氏
1974年 土木工学科卒業 (4回生・大沼研究室)

2003年、それまで各学科ごとに開催されていた北海道内の同窓会が、本部の要請もあり全学科にまとめてられてから、今年で12年目を迎えました。

設立当初から広域な北海道で全学科統一の同窓会を運営していく難しさを感じており、『焦らず、気張らず、自然体で』をモットーに一年ごとに北海道工業大学(現北海道科学大学)との間で行われている交流戦の際に大学教職員の方々と札幌近郊の同窓生の方々との親睦を深めてきました。

しかし、2011年の東日本大震災以降、交流戦が中断していたため、その機会がなく大変残念に思っていたところですが、今年は札幌で開催されるとの連絡を受け、同窓生への参加の案内をしているところであります。

また、支部としては出来るだけ多くの方が北海道支部の存在を認識し、参加していただけるよう、新年会と本部総会の報告の時期に懇親会を開催しており、今年1月24日に行われた新年会には新たに5名の方に出席いただきました。また、4月には旭川地区で以前から開催されていた『八木山会(土木工学科卒業生)』に支部役員等が出席し、連絡体制等について相談してまいりました。

また、他の地域の方々に対しましては、この投稿を通じて同窓会本部の『メールアドレス登録』をしていただけますようお願い申し上げます。

最後になりますが、東北工業大学の益々の繁栄と同窓生諸氏のご健勝を心より祈願いたします。



【岩手支部】 岩手県同窓生の集い

福田 照明 (ふくだ てるあき) 氏
1978年 建築学科卒業(10回生・佐賀研究室)
現在 株式会社大和コンストラクションJAPAN勤務

「岩手県同窓生の集い」として、今年も年1度の交流会が、2014年5月31日盛岡駅前のホテルルイズで開催されました。

このイベントが始まってまだ5年目、大学は設立50周年を迎え、半世紀の長きに渡って時を刻み、さらなる未来に向かって歩んでおります。私達の交流もその歴史に何かしら貢献できないものかとの思いで、小さな輪(和)ではありますが、年々大きくなる様に、経験豊かな知識や知恵が生かされる事を望んで、同窓生の結束をより一層の力としたいものです。

今年の集まり具合は、大学の記念行事の日程の関係で時期が悪く、例年の半数以下の参加ではありましたが、その分親交を深め、有意義な交流であった様に思われます。又、各学科の代表スピーチの中で、岩手は広い

ので、地域性を以って同窓会を開催している話や、定年組が増え、この集いを通して、新たな人生の生きがい求めて参加されている方々もおられました。

最後に、秋元同窓会会長をはじめ、父母後援会の皆様方や毎年この集いを準備していただいている事務局の皆様方に感謝し、これからの開催においても、近況を語り合える楽しみや喜びが一層強まる交流会であると考えますので、岩手の同窓会の皆様方に対し、遠路はるばるとご参加下さいます事を切望いたします。



【福島支部】 福島県同窓生の集い

小椋 幹一 (おぐら かんいち) 氏
1984年 土木工学科卒業(14回生・外門研究室)
現在 大日本コンサルタント株式会社勤務

2014年6月1日(日)福島県同窓生の集いが郡山市ビューホテルアネックスにて開催されました。

福島県における同窓生のネットワーク構築を目的に今年も3年連続3回目となります。

秋元俊道同窓会長の開会あいさつでは震災の復興、いまだ完全に改善されない風評被害に対するお見舞いの言葉、今回の集いの趣旨や同窓会への活動状況、後援会との連携等について紹介がありました。

皆様方、年齢、学部も異なる約30名弱が出席され、終始和やかに交流を図る事が出来ました。

その中で小生より、ひとつ提案です。

同窓会開催に当たりもっと深く親密性を高めるため県内1箇所固定でなく、他都市部開催でもよろしいかと思います。

例えば2015年は会津若松市、2016年はいわき市、2017年は福島市そしてオリンピック年は郡山市全体大会等々・・・。

福島県は広く都市部同士が離れておりますので各地区会員が集まることは非常に難を来たしておるのではと感じております。

今後の開催にご検討のほど、よろしくお願い申し上げます。



【秋田支部】

「第1回秋田県東北工業大学同窓会の集い」開催される

佐々木 康雄（ささき やすお）氏
1978年 電子工学科卒業（11回生・加藤研究室）
現在 秋田市役所総務部公共施設監査保全室勤務

秋田県では地域独自ではありませんが、2002年から田仲雅美代表のもと「東北工業大学同窓会」を不定期ながら4回ほど開催し、50名程度の参加者があったと覚えてます。

当時は、秋田に東北工業大学卒業生がいるのだろうかと不安ながらに情報収集、名簿作成、開催案内を出した記憶がありました。しかし、いざ開催してみると多数が各分野で活躍しており、大学時代の思い出だけでなく現在の仕事の情報交換なども行われ有意義な会となっていました。

今回は同窓会事務局が主体となり、2014年7月19日（土）秋田市のメトロポリタン秋田で「第1回秋田県東北工業大学同窓会の集い」が開催され18名ほどの参加があり、同窓会本部からは秋元俊通同窓会長をはじめ、西條芳郎様、榎本幹様、高橋正

行様が来秋してくださいました。

秋元同窓会長の挨拶では、岩崎理事長が2014年度ベンジャミン・フラクリン・メダルを受賞するなど国際的に活躍が認められているとの報告がありました。また、大学も教授陣から学生に至るまで精力的に研究に取り組んでいる話を聞き頼もしく思われました。プロジェクターによる八木山・長町キャンパスの紹介では、在学時の面影が少なく、月日が過ぎたことを痛感させられました。

今回参加人数が少なかったのですが、大館・男鹿・湯沢など遠方からの出席者があり感謝しています。次回は工大の輪がもっと大きくなることを期待するとともに、大学のますますの発展を願っております。最後に榎本様、秋田の純米酒はいかがでしたか、また来秋してくださいね。



50周年の歩み

1960

- 10.19 東北大学・県・市等の各界代表者による発起人会開催
- 10.19 学校法人東北電子学院設立。初代理事長に宮本武夫（元郵政事務次官）就任
- 12.15 名称 学校法人東北電子学院、東北電子工業高等学校設置認可



初代学長
宮城 音五郎

1961

1962

- 11.27 学校法人東北電子学院「4年制工業大学」設置計画決定



1964（昭和39）年
創立当時の東北工業大学

1963

- 2. 1 工業大学設立準備室設置
- 4. 8 東北工業大学の設置決定
- 9.25 東北工業大学設置申請



1965（昭和40）年
東北工業大学1・2号館

1964

- 1.25 東北工業大学設置認可
- 1.25 東北工業大学の校章「工大」のデザインが、角田専一郎電子工高講師創作のものとして決定
- 3.31 1号館完成
- 4. 1 東北工業大学開学。工学部（電子工学科、通信工学科、各学科定員50名）
- 4. 1 初代学長 宮城音五郎就任（高校長兼務）
- 4. 6 10月19日を創立記念日とする
- 4.20 第1回大学入学式挙行、入学生113名（電子工学科57、通信工学科56）



1966（昭和41）年
東北工業大学1号館

1965

- 3. 1 東北工業大学紀要発刊
- 4. 1 法人名変更、学校法人東北工業大学（旧学校法人東北電子学院）
- 5.10 2号館完成



1965（昭和40）年
磐司山荘完成（宮城県秋保町二口）

1966

- 4. 1 建築学科増設（入学定員70名）
- 7.10 旧3号館完成

1967

- 4. 1 土木工学科、工業意匠学科増設（入学定員各80名）

- 4. 1 電子・通信・建築各学科定員改定（各学科 80 名）。建築学科教職課程開設
- 5.10 4 号館完成
- 9.14 初代学長 宮城音五郎逝去（19 日大学葬）



1967（昭和 42）年
第 1 回大学祭テーマ「人間性と現代科学技術発展との調和」

1968

- 1.24 第 2 代学長 内田英成就任
- 1.24 電子・通信・建築・土木各学科定員改定（各学科 120 名）
- 3.23 第 1 回東北工業大学卒業式（卒業生 電子工学科 51 名、通信工学科 43 名）
- 4. 1 土木工学科、工業意匠学科教職課程開設
- 4. 1 大学計算センター発足（HITAC-201 基本システムを利用）
- 12.10 5 号館完成



第 2 代学長
内田 英成

1969

- 1.22 第 2 代理事長 水谷史郎（前財団法人通信教育振興会理事）就任
- 8.21 6 号館完成



第 2 代理事長
水谷 史郎

1970

- 3.20 昭和 44 年度卒業式に初の祝賀パーティ開催



1970（昭和 45）年
当時の仙台駅周辺

1970（昭和 45）年
当時の中央通りと一番町商店街



1970（昭和 45）年
期末試験風景

1971

- 4. 1 吉田賢抗教授に本学名誉教授（第 1 号）の称号を贈る

1972

- 3.28 大型電算機導入（HITAC-201 型から TOSBAC3400/41 へ）
- 7.15 「工大通信」創刊
- 11. 1 内田英成学長、多線条線路解析理論によるアンテナの開発で紫綬褒章受章

1973

- 8. 1 第 3 代理事長 宮本豪郎（前東海電波管理局長）就任
- 10.18 朝永振一郎博士来学、講演「科学と常識」



第 3 代理事長
宮本 豪郎

1974

- 4. 2 第 3 代学長 菊池喜充就任
- 9.18 第 4 代理事長 柳川東吉（前東京地方簡易保険局長）就任
- 10.22 開学 10 周年記念式典で東北大学学長加藤陸奥雄氏講演「かけがえのない地球」



第 3 代学長
菊池 喜充



第 4 代理事長
柳川 東吉

1975

- 9.10 事務機構改正（経営管理室・大学事務局廃止、大学事務部設置）

1976

- 9.28 第 4 代学長 木村瑞雄就任



第 4 代学長
木村 瑞雄

1977

- 10. 2 新教授会発足



1977（昭和 52）年
当時の香澄町キャンパス風景



1977（昭和 52）年
当時の 1 号・3 号・5 号館

1978

- 1978（昭和 53）年
6 月 12 日宮城県沖地震発生！



3 号館



5 号館前の
亀裂



5 号館



工業意匠学科 S・D 研



保健室



学生 3 名の
負傷者



散乱した図書
を整理する
学生

50 年 の 歩 み

1979

- 1.22 地震災害復旧事業最終計画決定

1980

- 4.11 新3号館完成
5.12 中国防災視察団が5号館の補修・補強の状況視察



1980（昭和55）年
3号館落成

1981

10. 1 計算センター（大型計算機 HITAC M-160H）導入

1982

- 4.01 情報処理教育センター設置

1983

- 3.20 7号館（耐震建築
P C トラス工法）
完成



1982（昭和57）年
正面脇「東北工業大学」
の新プレート完成



1983（昭和58）年
7号館が耐震建築として世界初
のPCトラス工法で完成

1984

4. 1 第5代学長 虫明康人就任
10.18 大学創立20周年記念講演会の開催
「新しい情報通信メディア」虫明康人学長



第5代学長
虫明 康人

1985

4. 1 情報処理技術研究所設置。初代所長に関寅雄教授就任。学園表彰制度の制定
4. 5 東北工業大学後援会発足
7.13 東北工業大学同窓会結成（各学科同窓会の連合となる）
9.30 8号館完成
10.19 学校法人東北工業大学創立
25周年記念式典開催
『学校法人東北工業大学
二十五年史』刊行
11. 3 虫明康人学長 紫綬褒章を
受章



1985（昭和60）年 ニッ沢校地取得

1986

- 9.14 北海道工業大学とのスポーツ交流定期戦発足

1987

4. 1 大学入学生臨時定員増各学科140名

1988

- 2.18 電気通信主任技術者試験の一部免除申請認可（通信工学科）

7.31 ニッ沢校地利用計画決定



1988（昭和63）年
第13回工大祭（Vector）

1989

3. 1 電気通信主任技術者試験の一部免除申請認可（電子工学科）
4. 1 第6代学長 岩崎俊一就任
12.14 大学調査書入試制度（AOVA）による入試初
実施



第6代学長
岩崎 俊一

1990

- 3.10 ニッ沢校舎1号館完成
4. 1 ニッ沢新キャンパス開設
4. 1 ニッ沢コンピュータアリーナ開設
5.27 ニッ沢新キャンパス開設記念式典・記念祝賀会举行



「TIT ギャラリー」の開設



ギャラリー内展示風景



ニッ沢キャンパス内「散策路」



地域住民に開放した「ニッ沢工大公園」

1991

- 1.12 大学入試センター試験に初参加
11. 1 第5代理事長 工藤 寛就任



第5代理事長
工藤 寛

1992

4. 1 大学院工学研究科修士課程（通信工学専攻・建築学専攻・土木工学専攻）を開設。同専攻教職課程を開設

1993

4. 1 大学院工学研究科修士課程（電子工学専攻）を増設。同専攻教職課程を開設

1994

- 1.12 岩崎俊一学長、宮中の「講書始」の儀で御進講
3.19 初の大学院修士課程修了10名
4. 1 大学院工学研究科博士課程（通信工学専攻・建築学専攻）を開設
4. 1 セメスター制（Semester 2学期制）の導入



香澄町キャンパスの図書館新築



新装図書館のホール廻り



D 科二瓶教授デザインの
の銘板

1995

- 4. 1 大学院工学研究科博士課程（電子工学専攻・土木工学専攻）を増設
- 4. 1 文科学系学科と理科学系学科を人間科学センター、教職課程センター、理工学実験室ニッ沢ユニットに変更
- 11. 1 教育技術職員制度の施行

1996

- 10.19 東北工業大学同窓会設立 10 周年記念講演会・記念交流会。
岩崎俊一学長「研究と創造—磁気記録の研究を通して—」記念講演

東北工業大学同窓会設立10周年
記念講演会・記念交流会
～新たなスタートをめざして～
日時 平成8年10月19日（土）
16:00～19:00
会場 ホテルメトロポリタン仙台
●主催：東北工業大学同窓会
●共催：東北工業大学電子通信工学科同窓会
：東北工業大学機械工学科同窓会
：東北工業大学土木工学科同窓会
：東北工業大学工業管理工学科同窓会
●後援：東北工業大学
：東北工業大学後援会
プログラム
〔1部〕「記念講演会」——16:30～17:30
・会 社
・記念講演（岩崎俊一学長 報告 報告）
・同窓会長挨拶（秋元清一郎）
・表彰状授与（東北工業大学 岩崎俊一学長 岩崎俊一）
・記念講演
講演：「研究と創造—磁気記録の研究を通して—」
講演：「研究と創造—磁気記録の研究を通して—」
学長 岩崎俊一
●役員名簿
-S24. 3 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S34. 4 工学博士（東北大学）の学位授与
-S36. 6 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S44. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S46. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S48. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S50. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S52. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S54. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S56. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S58. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S60. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S62. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S64. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S66. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S68. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S70. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S72. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S74. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S76. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S78. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S80. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S82. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S84. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S86. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S88. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S90. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S92. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S94. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S96. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S98. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S100. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
〔2部〕「記念交流会」——17:30～19:00
・会 社
・記念講演（岩崎俊一学長 報告 報告）
・同窓会長挨拶（秋元清一郎）
・表彰状授与（東北工業大学 岩崎俊一学長 岩崎俊一）
・記念講演
講演：「研究と創造—磁気記録の研究を通して—」
講演：「研究と創造—磁気記録の研究を通して—」
学長 岩崎俊一
●役員名簿
-S24. 3 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S34. 4 工学博士（東北大学）の学位授与
-S36. 6 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S44. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S46. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S48. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S50. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S52. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S54. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S56. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S58. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S60. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S62. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S64. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S66. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S68. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S70. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S72. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S74. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S76. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S78. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S80. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S82. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S84. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S86. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S88. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S90. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S92. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S94. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S96. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S98. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻
-S100. 4 東北工業大学工学部電子工学科専攻

1996（平成8）年
東北工業大学同窓会設立 10 周年記念講演会・記念交流会

1997

- 6. 9 工学研究科、東北工業大学第 1 期ハイテク・リサーチ・センターに
選定
- 7.15 ニッ沢校舎 2 号
館完成



ニッ沢キャンパスの新 2 号館



新 2 号館屋上から見る太白山



後援会より寄贈
の大時計

1998

- 5.27 ハイテク・リサーチ・センター開所式



ハイテク・リサーチ・センター完成

1999



仙台市都市景観大賞となった香澄町キャンパス前の松並木



2000

- 4. 1 大学院工学研究科修士課程（デザイン工学専攻）を増設、同専攻教
職課程を開設



仙台スタジアム完成

2001

- 4. 1 環境情報工学科を増設。大学新教育課程スタート
- 4. 1 学都仙台単位互換ネットワーク協定（単位互換制度）発足



2001（平成 13）年
仙台ショーウィンドーデザインコンテスト
（D 科 3 年表示技法系グループによる準グラン
プリ、市民大賞受賞作品）



2001（平成 13）年
新 9・10 号館完成模型（新棟建設委員の D
科二瓶教授による基本計画）



2001（平成 13）年
新 2 号館安全祈願祭

50 年 の 歩 み

2002

4. 1

大学院工学研究科博士課程（デザイン工学専攻）を増設。環境情報工学科教職課程を開設

11.27 第2期ハイテク・リサーチ・センター（NRDスーパーブロードバンド研究センター）設置



2002～03（平成14～15）年
仙台ショーウィンドーデザインコンテスト 総合グランプリ獲得



2003（平成15）年 第二期ハイテクリサーチセンター・センター研究棟完成

2003

1. 7 「創造から統合へ」—仙台からの発信—をユニバーシティスローガンに掲げる

2.21 9号館、10号館完成

4. 1 大学院工学研究科博士課程（環境情報工学専攻）を増設

4. 1 土木工学科を建設システム工学科に、工業意匠学科をデザイン工学科に名称変更

10. 1 東北工業大学一番町ロビー開設

11. 3 岩崎俊一学長、瑞宝重光章を受章

12.12 岩崎俊一学長、日本学士院会員に選出される



2003（平成15）年
9・10号館が日経
ニューオフィス賞を受賞



2003（平成15）年
東北工業大学一番町ロビー開設（1階ギャラリー・4階ホール）

2004

4. 1 通信工学科を情報通信工学科に名称変更

9. 1 第6代理事長 岩崎俊一就任（学長兼任）



第6代理事長
岩崎 俊一



2004（平成16）年
ニッ沢キャンパスに第2
クラブ棟完成

2005

4. 1 高大連携公開講座始まる

4. 1 情報処理技術研究所を改組。新技術創造研究センター、eラーニングセンター及び情報ネットワーク管理室を設置

10. 1 東北工業大学同窓会設立20周年記念事業。
岩崎俊一学長と東大名誉教授樋口陽一氏が、「科学技術と文化について」記念対談を行う



2004（平成16）年
一番町ロビー演奏会



2004（平成16）年
垂直磁気記録方式による量
産ハードディスク1号機



2005（平成17）年
東北工業大学同窓会創立20周年記念事業 樋口陽一先生・岩崎俊一先生対談「科学技術と文化」

2006

4. 1 ウエルネスセンター設置

7.20 新1号館完成



2006（平成18）年
新1号館落成記念式典



2006（平成18）年
新1号館完成写真

2007

- 4. 1 東北工大高校・東北工業大学連携講座開講
- 4. 1 工学部電子工学科を智能エレクトロニクス学科に名称変更
- 5.14 建設システム工学科、J A B E E（日本技術者教育認定機構）の認定を受ける
- 10.24 タイ泰日工業大学と交流協定書に調印



2007（平成19）年
「ISO14001」取得



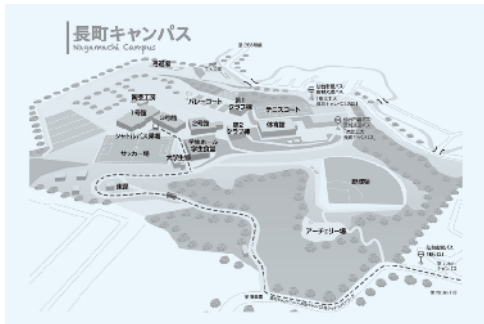
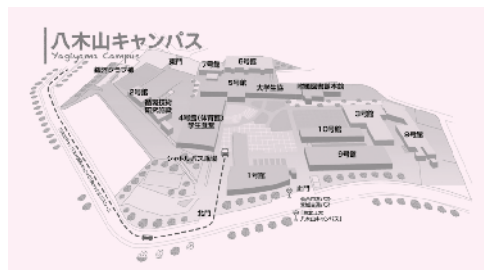
2007（平成19）年
仙台七夕「サンモール賞」受賞

2008

- 2.13 東北工業大学ISO14001／2004認証取得
- 2.28 中国広州大学と交流協定書に調印
- 3.31 ニツ沢校舎3号館完成
- 4. 1 第7代学長 沢田康次就任
- 4. 1 工学部を改組、長町キャンパスにライフデザイン学部、クリエイティブデザイン学科・安全安心生活デザイン学科・経営コミュニケーション学科を開設
- 4. 1 香澄町キャンパスを八木山キャンパス、ニツ沢キャンパスを長町キャンパスに名称変更



第7代学長
沢田 康次



2009

- 4. 1 情報ネットワーク管理室を情報センターに改組
- 6. 5 宮城高専・仙台電波高専（10月1日より統合して仙台高等専門学校）と学術交流協定締結
- 6. 8 台湾中原大学と交流協定締結



2009（平成21）年
仙台七夕祭り「銅賞」受賞



2009（平成21）年
仙台六大学野球選抜（ハワイ国際野球大会）

2010

- 4.21 岩崎俊一理事長、2010年（第26回）日本国際賞受賞



2010（平成22）年
岩崎理事長日本国際賞を受賞

50周年の歩み

2011

- 4. 1 工学部建設システム工学科を都市マネジメント学科に名称変更
- 12.9 復興大学（責任大学／東北工業大学）4事業が文部科学省から採択



2011（平成23）年
東日本大地震発生

2012

- 4. 1 大学院ライフデザイン学研究科博士（前期・後期）課程開設。同研究科デザイン工学専攻を開設
- 4. 1 工学部環境エネルギー学科を増設

2013

- 1.25 長町キャンパス4号館完成
- 4. 1 第8代（現）学長 宮城光信就任
- 5.16 仙台印刷工業団地協同組合と「まちづくりなど事業活動における連携・協力に関する協定」を締結
- 5.17 仙台市と「まちづくりにおける連携・協力に関する協定」を締結
- 5.20 公益社団法人 みやぎ産業振興機構と「地域活性化に向けた事業活動における連携・協力に関する協定」を締結
- 8. 9 石巻市と「雄勝地区再生に向けた協力及び連携に関する協定」を締結
- 11. 3 岩崎俊一理事長が「文化勲章」受章
- 11. 3 沢田康次前学長が「瑞宝中綬賞」受賞
- 11.26 宮城県教育委員会と「包括連携協力に関する協定」を締結



第8代（現）学長
宮城 光信

2014

- 2.14 NHK文化センター仙台総支社と「連携・協力に関する協定」を締結
- 2.18 国土交通省東北地方整備局と「連携・協力に関する協定」を締結
- 4. 1 新技術創造研究センターを地域連携センターに改称
- 4. 1 創立50周年を迎える



50周年ロゴ

- 4.24 岩崎俊一理事長が「2014年度ベンジャミン・フランクリン・メダル（米国）」受賞



ベンジャミン・フランクリン・メダル授章式に出席した岩崎俊一理事長

- 6.21 創立50周年記念式典



記念式典



祝賀会



見学会

- 7. 7 岩崎俊一理事長が仙台市名誉市民の称号授与

東北工業大学同窓会

第 30 回定時総会のご案内

開催日時：平成26年10月25日(土)

定時総会(桜の間)/16:30~17:30

懇親会(広瀬の間)/17:30~19:30

議 題： ① 平成 25 年度事業報告 ② 平成 25 年度決算報告
③ 平成 25 年度監査報告 ④ 平成 26 年度事業計画
⑤ 平成 26 年度予算案 ⑥ その他

会 場：仙台国際ホテル

仙台市青葉区中央 4-6-1 ☎ 022-268-1111 (代)

懇親会参加費：3,000 円

※参加費は当日会場にて徴収いたします。

懇親会には多くの先生方もお臨席されます。同級生、研究室やクラブの同窓生等、お誘い合わせの上ご参加ください。

卒業された皆様へ

東北工業大学同窓会 会費未納の方へ

同窓会会費は会員間のネットワーク化事業、在学生への支援、支部活動の推進、本学および本学後援会との共同事業等を進めるために有効に活用しています。同窓会会費未納の方は、別紙郵便振替通知書で、早急に納入いただきますようお願い申し上げます。

●**終身会費 20,000 円**

(5,000 円×4回・10,000 円×2回の分割納入方法もございます)

●**郵便振替口座**

02280-5-22263 東北工業大学同窓会

※すでに納入済の会員には、郵便振替通知書は同封しておりません。

本会運営の趣旨をご理解の上、この通知をご容赦ください。

東北工業大学創立50周年記念事業 教育振興助成基金募集のお願い

東北工業大学は、平成 26 年度をもって創立 50 周年を迎えました。今後も「わが国、特に東北地方の産業界で指導的役割を担う高度の技術者を養成する」という建学の精神に基づき、時代の変化に対応しながら積極的に種々の施策に取り組み、教育環境の充実に努める所存です。

現在、創立 50 周年記念事業として、教育振興助成基金への寄付募集を行っていますので、同窓生の皆様におかれましても本募金活動に対し格別のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

詳しくは、東北工業大学ホームページをご覧ください。

http://www.tohtech.ac.jp/fifty/reconstruction_aid/index.html

発 行：東北工業大学同窓会

事務局：東北工業大学キャリアサポート課内 〒 982-8577 仙台市太白区八木山香澄町 35-1

TEL.022-305-3336 FAX.022-305-3337

URL.<http://www2.odn.ne.jp/~aan98460/>